\教えて! 外務省/

知っておきたい
国際協力⑨

各国の首脳が一堂に会するサミット（首脳会合）。6月にはG20の大阪サミットが、8月にはG7のビアリッツ・サミット（フランス）が開催されます。

©DLE
外務省ODA広報キャラクター
ODAマン

今月のテーマ

サミット（首脳会合）と開発問題

Q1 サミットで、開発問題はどう議論されているの？

A1 重要テーマの一つとして議論され、政治的なメッセージを発信します。

G7やG20のサミットは年に1度開催され、世界のさまざまな問題について話し合われます。途上国の貧困、教育、保健といった開発問題はサミットの重要テーマの一つとして議論され、国際社会に対し政治的なメッセージを発信してきています。

G7は1月に、G20は12月に議長国が交代し、次のサミットに向けて関連する閣僚会合や事務レベルの作業部会を通じて準備を進めます。

G7では長年、食料安全保障やアフリカなどを取り上げているほか、これまでに表明した約束（コミットメント）の進捗を報告しています。なおG7開発大臣会合は2010年以降開催されていませんでしたが、昨年カナダが8年ぶりに開催し、今年もフランス議長国下での開催が予定されています。

G20では10年以来、開発分野で存在感を増す新興国も交えて、グローバルな諸課題にG20としていかに取り組むべきかを議論しています。

2018年のG20ブエノスアイレス外相会合で記念撮影に臨む河野太郎外務大臣（写真提供：外務省）。

Q2 今年のG20、開発分野で何を議論するの？

A2 持続可能な開発の鍵となるテーマについて議論します。

2015年の国連サミットで採択されたSDGsは、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会を実現すべく、30年までに達成すべき目標として17のゴールおよび169のターゲットを定めています。G20は、16年にSDGs達成に向けた行動計画をとりまとめ、その後の取り組みを毎年アップデートしています。今年秋のSDGsサミットも見据え、G20の取り組みを発信する予定です。

途上国をはじめ世界では、道路、水、電力といったインフラを整備してほしいというニーズがたくさんあります。ただ、持続可能な開発を実現するためには、どのようなインフラでもよいわけではなく、たとえば、環境や社会面での影響に配慮した「質の高いインフラ」を整備していくことが重要です。G20では、このような「質の高いインフラ」とはどのようなものであるべきか、共通認識をつくり、国際社会に広めたいと考えています。

また持続可能な開発を達成するためには、人への投資を通じたエンパワーメントが不可欠です。そのため、教育、保健、栄養などさまざまな要素のうち、本年は特に教育に焦点を当て、途上国において誰一人取り残されず、人々が自然災害や紛争などの危機に際しても復興に向けた力を発揮でき、さらによりよい未来を築くための変革を生み出せる社会を創るために、どのように質の高い教育を確保するかを話し合っています。

このほか、「三角協力」や「防災」といったテーマでサイドイベントも開催するなど、さまざまな角度から開発分野について議論し、日本自身の取り組みも発信していきます。

G20開発作業部会の様子。

答えてくれた人

外務省
国際協力局 参事官（地球規模課題担当）
赤松 武（あかまつ・たけし）さん

1988年外務省入省。大臣官房国際報道官、中東アフリカ局アフリカ第一課長、在スーダン日本国大使館参事官、在南スーダン日本国大使館特命全権大使、国際連合日本政府代表部公使などを経て2018年9月より現職。G7・G20開発分野などを担当し、大阪G20開発作業部会の議長を務める。

Q3 G7開発大臣会合のポイントは？

A3 アフリカに焦点を当てた議論が予定されています。

今年のフランス議長国下のG7では、グローバリゼーションが進む中で「誰一人取り残さない」ための不平等との闘いが全体テーマとなっています。

開発分野では、7月に開発大臣会合が開催され、貧困、若者の雇用、紛争、国家機能の脆弱性が大きな課題となっているアフリカの諸地域などへの支援のあり方や、持続可能な開発のための新しい資金調達の方法についても話し合われる予定です。また、あわせて開催される教育大臣・開発大臣会合では、女子教育と職業技術教育訓練の充実に向けた議論が行われる予定です。

日本としては、8月のアフリカ開発会議（TICAD）の開催も見据え、G7の場でも、アフリカへの支援に関する議論に積極的に参加していく考えです。

安心・安全な中学校で学ぶ女子生徒たち（カンボジア）。（写真提供：JICA）

みんなの学校・女子就学キャンペーンの様子（ニジェール）。（写真提供：JICA）

©DLE

＊G7は日本、米国、英国、フランス、ドイツ、イタリア、カナダの7か国とEUが参加する首脳会議。G20は、G7にほかの先進国や新興国も加えた20か国が参加する首脳会議です。

在外公館レポート from ブルキナファソ Burkina Faso

裁縫技術で未来を築く女性たち

アフリカのサハラ砂漠南部に位置するブルキナファソは、世界で最も貧しい国の1つで、国際社会からの支援が求められている国です。家庭の事情などで就学をあきらめる女性も多く、中学校への進学率が41.8パーセント、高校への進学率が15.2パーセント（2016～17年）と高くありません。女性たちが収入を得るための職業技術を身に付ける教育施設も不足していて、その増設と質の向上が国の「人材開発」の課題として挙げられています。

そのような状況のなか、首都のワガドゥグ市にある女性のための裁縫訓練施設が日本のODAの支援を受けて13年に校舎を増築し、不足していた裁断用の机やアイロン、足踏みミシン、はさみなどが供与されました。この施設はおもに中学校以上の学習機会のない女性たちに、自立と就業のための専門技術の学習機会を与えるためのもの。通学している女性たちは13歳から20歳で、卒業生は766人です（18年3月現在）。この学校では、卒業時に優秀者5人に学校が機材を供与して就業できるように援助することを、生徒へのモチベーションとしています。

生徒たちは3年間、最近の日本ではあまり見ることのなくなった足踏みミシンや木炭を入れたアイロンを上手に使って、理論と実習を通して裁縫の技術習得に日々励んでいます。

ブルキナファソでは、既製服を購入するよりも体形に合わせて好きな色や柄の普段着や外出着を仕立てるのが一般的。そのため、仕立屋はとてもニーズの高い職業です。この訓練施設を卒業した女性たちの7割以上が個人で仕立服の店を開いたり、仕立屋に就職したりして、その技術を生かして活躍しています。この国の未来を背負う女性の社会進出に、今後も日本の草の根の協力が役立っていくことでしょう。

（在ブルキナファソ日本国大使館）

子ども用のワンピースを製作した生徒。